



吉田千秋邸へようこそ (全校)

小合中学校



吉田千秋

日本歴史地理学のパイオニアである吉田東伍博士の次男で、語学に精通し、16歳で6ヶ国語をマスターし、世界中にペンフレンドがいました。

「琵琶湖周航の歌」の原曲である「ひつじぐさ」を訳詞作曲し発表すると、ラジオの無い時代にもかかわらず、多くの人々に歌われました。

千秋の生きた人生

1895年 2月18日	現在の秋葉区大鹿に生まれる
1897年 2歳	父(吉田東伍)の元へ上京
1901年 6歳	小学校入学
1912年 17歳	東京農業大学予科入学
1914年 19歳	大学を病気のため退学
1915年 20歳	「ひつじぐさ」訳詞作曲を『音楽界』に発表
1919年 24歳	24歳の若さで死去



吉田千秋邸

千秋の遺品がたくさん展示されていますよ。

短い人生だったけれど、千秋は私たちにたくさんの宝物を残してくれました。



千秋はこの卓上ピアノを使って、100以上の曲を作ったんだね。ここからたくさんの曲が生まれたなんて素晴らしい！

音楽雑誌にたくさん投稿していたのね。



千秋の姪御さんは、とても親切に質問に答えてくれます。

千秋のアコーディオンはドイツ製です。とっても重厚感がありますよ。



蓄音機で外国語の勉強をしていたなんて、すごいね。



千秋のスケッチはどれもとても緻密で繊細で思わず見入ってしまいそう…。



自分で図鑑や雑誌をつくっていたなんてすごいな。

とても優雅な感じがするよね。

8分の6拍子は日本人が好む拍子だからって、この曲に取り入れたみたいだよ。

四部合唱で歌うとハーモニーもきれいだよね。



「ひつじぐさ」は開花時刻が未(ひつじ)の刻(午後2時頃)であることに由来する。日本に自生する唯一のスイレン。



千秋は「静かに、厳かな雰囲気で歌ってほしい」という願いを込めたそうです。

千秋のことを知らない人はまだ多い。私たちにできることは何だろう…

取組①「ひつじぐさ」を歌い継ごう！ 取組②「ひつじぐさ」を育てよう！

先輩たちの意思を受け継ぎ、毎年、入学式や卒業式、合唱祭で大切に歌っています。



「琵琶湖周航の歌」の舞台、滋賀県今津町から譲り受けた「ひつじぐさ」は美しい水でないと生育しないそうです。



池の清掃は保護者や地域の方たちの協力を得ながら行っています。

千秋のことを知っていただくため

取組③ガイドに挑戦しよう！

秋葉区文化会館での「琵琶湖周航の歌100周年」記念コンサートの際には、来場者の皆さんに千秋を紹介するガイドに挑戦しました。



来場者の声

- 中学生からこんなにお世話していただいたのは初めてです。
- 中学生のみなさんの笑顔のプレゼントありがとう！

取組④ラジオで発信しよう！

FM新津で視聴者の皆さんに千秋について紹介しました。初めは緊張したけど、1回目より2回目というふうに、少しずつ慣れてきました。



子どもの声

- ガイドではたくさんの人と話したり案内できたりしてよかったです。
- ガイドやラジオなどの体験によって、千秋のことを改めてよく知れました。
- この挑戦を何かに生かしたいです。



私は千秋のような人物がこの小合地域にいたのだと思うと、とても誇らしい気持ちになりました。何か人から言われてやるのではなく、自分からすすんで追求する姿勢や国を越えて色々な人とかかわろうとした千秋の生き方は、とても刺激になりました。私も自分で枠を決めずに、何事も前向きに挑戦していきたいと思います。



千秋の家は、幼い頃から身近にありました。千秋は音楽をつくるための最適な環境が整っているわけでもなく、誰かが語学を教えてくれるわけでもないのに、独学で学び、成し遂げる姿勢が素晴らしいと思いました。私も環境が整ってなくても、夢をあきらめずに叶えていけるようになりたいと思いました。